

質疑応答：計画に対する上期業績および製造生産系の業績回復時期について

司会者：「当初の計画に対し、上期の業績はいかがでしたか？ また、製造生産系人材サービスについて、在籍人数を増やしつつ業績を伸ばせる時期はいつ頃を想定していますか？」というご質問です。

清水：現状について、売上は若干遅れていると感じていますが、収益は計画どおりに進捗しています。ここから在籍人数が少しずつ増え、さらに回復が進むのではないかと見ています。

好調な会社（お客様）と、そうではない会社の混在をマスコミが報道していますが、そのような状況下で、我々の想定していた人的ニーズがすべて計画どおりに行われるかどうかというのは、なかなか見通しが難しい状況です。

そうは言いながらも、先ほどお話ししたとおり濃淡はあるものの、下期からは徐々に回復へ向かっていくと見ています。

質疑応答：エンジニアの増加経緯について

司会者：「エンジニアの社員数が増えています。これは新規採用なのか、それとも社員のキャリアチェンジによるものなのか、どちらでしょうか？」というご質問です。

清水：当社の場合は、キャリアチェンジが多いです。新卒を含む新規採用者がエンジニアになるケースが2割、製造生産系でキャリアを積んだ方がエンジニアへキャリアチェンジするケースが8割と認識しています。

質疑応答：教育研修施設の新設予定について

司会者：「今後、教育研修施設を新設する予定はありますか？ 予定がある場合、その狙いと時期を教えてください」というご質問です。

清水：愛知県を中心とするエリアへのテクニカルセンターの開設を検討しています。愛知県は工業が集積しているエリアで、ここでは新規工場のプロジェクトが目白押しですので、そこに向けた育成の仕組みが必要になると考えています。

他のエリアについてもいくつか候補はありますが、少し流動的です。各地区で参画しているコンソーシアムでの情報交換や情報収集をする中で、育成の仕組みが必要だという判断になれば我々も動きます。

岩手県のように、大きな工場を誘致あるいは工場を拡張することがあれば、自治体が出てくるケースもあるのではないかと思います。こちらに対する情報収集も行っています。

質疑応答：在籍人数の減少理由について

司会者：「期初からの在籍人数の減少について、これは採用数によるものなのか、退職者の増加によるものなのか、どちらの問題が大きいですか？」というご質問です。

清水：退職者は抑えられていますので退職率は増えていません。この減少は、採用している人数の減少が大きな理由です。

一方で、昨年度と比べても面接まで来られる方の数はむしろ増えていきます。問題は、求職者にとって就職したいと思える会社であるかということで、就業場所の選択肢が減っていることが、入社率を下げている一番の要因だと考えています。

したがって、もう少しメニューが充実してくるタイミングで、在籍人数は増え始めるのではないかと考えています。